

2024 年度 学校法人 三幸学園 沖縄ビューティー＆ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 坂東 真弥

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 山下 直樹

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

前年度重点施策振り返り

＜教務目標＞ ■各学科・コースの業界、授業に魅力を感じ、生徒が学びがいを持って学校に通っている

(参考→出席率・単位不良数・授業アンケート・卒業生アンケート資格取得率など)

■チームとしても個々としても関係の質にこだわり、日々、一人一人の生徒と向き合い続ける

■進級・卒業率向上・・・全学年 92% 進級学年→87% 卒業学年→98%

＜キャリア・就職目標＞進路決定率 100%

① 学校関係者評価委員会コメント(坂東委員)

授業アンケートの結果は、授業に対する先生の熱意を感じる 3.88(4点満点中)、授業方法は生徒の興味をひくように工夫されていた 3.80(4点満点中)など、重要視している項目は全国同分野姉妹校 12 校の中で最も高く、卒業生アンケートの結果に関しても、在学中を通してどのように感じられましたか(教職員の熱意・愛情)3.68 (4点満点中)、本校で成長することができましたか 3.75(4点満点中)など、重要視している項目は全国同分野姉妹校 12 校の中でも高い結果となった。昨年同様、工夫を行いながら授業展開や学校運営を行っていたが、学科コースによる教育の質の差が見られたため、今後さらに魅力的な授業を行い、学科コースによる格差をなくせるよう取り組んでいく。

一方、進級・卒業率は 86.2%と目標に届かない結果となった。進級・卒業率は昨年と比べ、1.7 ポイント下がり、特に 1 年生の進級率に課題が残る結果となった。早い段階で自分には向いていないと思ってしまう、進路変更してしまう、生活習慣のみだれなどから遅刻・欠席を繰り返し、単位不良、退学に繋がってしまうといったことが多くあったので、早い段階から楽しさや達成感を感じられるような授業展開、業界や授業の魅力の伝達すること、精神的な理由や経済的な理由で退学するケースも増えているため、相談しやすい環境を作る為のカウンセラー配置やスクールソーシャルワーカーの導入など、良い生活習慣、登校習慣などを作っていくノームを作っていくことを強化し、改善に繋げていけるように 2025 年度は取り組んでいく

進路・就職決定率に関しても開校より 4 年連続 100%と非常に良い結果を出せたので、今後も継続できるように

努めていきたい。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 授業アンケート重要項目の点で、全国同分野姉妹校12校の中で最も高かった事は、日頃の学校運営について、創意工夫が伝わり高い評価に繋がったと思われます。(山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)
- ・ 課題(1年生の進級率)につきましては、良い生活習慣、登校習慣などを作っていく施策(カウンセラー配置スクールソーシャルワーカーの導入)を本年度も継続をお願いします。(山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--|----|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） | 4 |
| 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱えているか | 4 |
| 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか | 3 |
| 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 3 |

① 課題

- ・ 理念・人材育成像を明確に掲げ、提示・説明しているが、様々な場面で繰り返し伝えつつけていく必要がある。
- ・ 社会や美容の動向やニーズを踏まえて、SNS での集客方法を学べる授業や、デジタル教科書、VR などの最新技術を活用した授業の導入を行っているが、教職員の理解や、慣れが必要だと感じているので、継続的な研修や会議を実施し、いかに取り組みをブラッシュアップしていけるかが課題。

③ 今後の改善方策

- ・ TEAMS を活用し、日頃からタイムリーに情報を共有できるようにする
- ・ 全体会議など、繰り返し様々な場面で理念・人材育成像を伝え続けていく。
- ・ 新たに取り入れた授業や、最新機器・ツールなどをしっかりと軌道に乗せていけるように、研修や会議を、状況を見ながら繰り返し実施していく。

④ 特記事項

なし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 理念・人材育成像に関しては、提示・説明を通じて繰り返し継続をお願いします。
社会や美容の動向やニーズを踏まえ最新技術を活用した授業の導入を一昨年度より継続しておりますが今年度もさらに質の高い授業の構築を目指し、研修や会議を通して教職員のブラッシュアップの取り組みをお願いします。（山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について）
- ・ 共有アプリ(TEAMS)で、情報の共有・各教員間とのコミュニケーションを取り、ディスカッションアイテムとして活用を行う方策は、有効で、来年度の評価に期待します。（山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について）
- ・

(2)学校運営

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--|----|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 事業計画に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 |
| 人事、給与に関する制度は整備されているか | 4 |
| 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 4 |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 3 |
| 教育活動に関する情報公開が適切になされているか | 3 |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 |

① 課題

- 適切な学校運営を行えている箇所が多いが、コンプライアンス体制に関しては、教職員全員の意識と行動が高いレベルというには至っていない為、引き続き研修や管理を行っていく。
- 情報共有・収集の強化、システム化などをより進め、働き方改革を進め、より効率的かつ効果的な業務遂行、学校運営を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

- 学園本部よりコンプライアンス研修を実施し、個人情報保護や SNS リスク、ハラスメント対策など教職員全体が適切な知識と対応をとれるようにする。
- 全国に姉妹校があるスケールメリットなども活かした、情報収集などによる効率化、情報システム化、業務の仕組化、OJT・OFF-JT による育成システムの構築による教職員のレベル UP を図る。

③ 特記事項

- タブレットを活用して出席管理を行うこと、TEAMS などを使い情報共有を行う、経費採算システムなど、ここ数年間で新たに導入したシステムを軌道に乗せることができている。

③ 学校関係者評価委員会コメント

- コンプライアンスについては、近年の社会情勢の基準になっております。
コンプライアンス研修を通じて、個人情報保護や SNS リスク、ハラスメント対策など教職員全体が適切な知識と対応をお願いします。（山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について）
- 数年前より継続のタブレットを活用しシステム運用の向上の成果が伺えます。今後も継続をお願いします。（山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について）

(3)教育活動

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|----|
| 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 |
| 目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 |
| キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 4 |
| 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 |
| 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 3 |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 |
| 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | 3 |
| 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか | 4 |
| 資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 |
| 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか | 3 |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 3 |
| 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 3 |
| 職員的能力開発のための研修等が行われているか | 4 |

① 課題

- ・ 関連分野や関連企業・団体との連携の強化を行い、今後も提携先企業や実習先を増やしていく必要がある。
- ・ 関連分野における先端的な知識や技能を習得する為の機会が少ない。
- ・ 生徒数増加に伴い、教員の人数も増えたため、経験が浅い教員の育成を行っていく必要がある。(現在はベテラン教員とペアで授業を実施している)

② 今後の改善方策

- ・ 業界との繋がりを強化、実習先の充実、教職員の知識習得に繋がられるよう、積極的に情報収集や企業訪問を実施する。
- ・ 教員研修などを行い、教員の育成を行っていく
- ・

③ 特記事項

- ・ 全校のビューティーアート専門学校合同の取り組みとして、テクニカルチームを組み、美容科・ヘアメイク科の教員中心に技術力向上の統一化が図れたため、次のSTEPとして指導力向上に努めている
- ・ 美容実習の教員免許取得の合格に向けて内部教員にて実技サポート体制をとっている

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 関連分野や関連企業・団体との連携した実習活動を引き続き行い、実習先の充実をお願いいたします。
(山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)
- ・ 教員の人数も増え、能力開発の研修及び、ベテラン教員の経験、知識を経験の浅い教員のスキルアップに繋げる施策を引き続き、お願いいたします。(山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)
- ・ 授業開始直後に業界関係者による講話が実施され、学生にとって職業理解や将来を考えるうえで非常に有意義な内容だった。こうした実践的な学びの機会は、学生の意欲向上にもつながる。講話にとどまらず、学びとして定着させていく継続的な取り組みが今後ますます重要になると感じた。(村橋委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)

(4)学修成果

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---------------------------------------|----|
| 就職率の向上が図られているか | 4 |
| 資格(免許)取得率の向上が図られているか | 3 |
| 退学率の低減が図られているか | 2 |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3 |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3 |

① 課題

- ・ 開校より4期連続、就職率は100%であったが、生徒が増えてもこの結果を継続し、沖縄県内を中心に就職先を更に充実させていく。
- ・ 2024年度美容師国家試験の合格率は93.8%、2023年度美容師国家試験の不合格生徒が再受験で合格したため、1期生～3期生の美容師国家試験合格率は100%となった。その他主要な資格の合格率も高水準だったので、今後もこの結果を継続していくこと。
- ・ 退学率を低減させていくこと。(特に1年生の退学率)
- ・ 卒業後の卒業生との関係性の構築していくこと。(卒業生用公式LINEや、学園独自のシステムなど関係性を構築できる環境は整えられている)

② 今後の改善方策

- ・ 高い資格合格率・取得率の継続⇒教科会の定期開催、授業・資格対策の質向上
- ・ 退学率低減 ⇒ 授業・学校生活での業界魅力伝達の強化(特に早い段階での楽しさ、達成感の創出)、保護者との連携強化。担任制度をチーム担任制にし、生徒やクラスの状態にあった教員が対応できる体制を整備。生徒との関係の質を大切に、特に初めの段階でどの担任、どの先生に相談してもOKなことを伝達し、学科、クラス、担任の枠を超えて生徒と関わられるようにする。また定期的にアンケートを実施し、悩みなどを把握、相談しやすい環境作りを実施。
- ・ 就職先の更なる充実 ⇒ 県内の企業や施設への訪問、情報収集を強化することでの求人獲得

- 卒業後の関係性の構築 ⇒ 構築している仕組みを軌道に乗せていく

③ 特記事項

- 全国に展開している姉妹校との連携により、資格取得や就職に向けた傾向と対策を実施。また退学率低減についても教育開発部が主導となって、退学者への様々なアプローチを実施し、低減に努めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- 開校年度より、高い美容者国家試験合格率(100%)については、各教員の教育カリキュラムの創意工夫による成果だと思います。それにより各関連企業より求人数の増加が見込まれると思われます。
また、各学生のモチベーション向上の繋がるよう今後も継続をお願いします。(山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)
- 今後の改善方策について、退学率低減に取り組む試みの成果を今後に期待します。(山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)
- 美容分野における学習成果を高めるためには、授業初期に業界全体の構造や多様な分野を学生に示し、自分の興味や目標を明確にできるようにする取り組みが非常に有効だと感じた。学生が主体的に学びを深めていくためにも、初期段階での「視野を広げる機会」の提供は継続して行うべき重要な教育アプローチである。(村橋委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)

(5) 学生支援

| 【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1) | 評価 |
|---|----|
| 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 3 |
| 学生相談に関する体制は整備されているか | 4 |
| 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 3 |
| 学生の生活環境への支援は行われているか | 4 |
| 保護者と適切に連携しているか | 4 |
| 卒業生への支援体制はあるか | 3 |
| 中途退学者への支援体制はあるか | 3 |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3 |
| 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 3 |

① 課題

- 進路・就職支援体制に関しては、沖縄県内での求人の獲得強化が課題(ネイル・美容部員)。
- 学校独自の特待生制度や、学費サポート制度、スクールカウンセラーの設置、学園本部と連携しスクールソーシャルワーカーの設置など体制を整えているが、制度だけでなくチーム担任を中心として、学生がより相談しやすい学校、生徒の変化に教員から気付き声をかけられる学校にしていきたい。また、卒業後の支援体制

も軌道に乗せていきたい。

② 今後の改善方策

- ・ 企業訪問、連携などを強化し、沖縄県内からの求人確保に努める。(特にネイル・美容部員)
- ・ チーム担任制を導入し、生徒に初めの段階でどの担任、どの先生に相談してもOKなことを伝達。また定期的にアンケートを実施し、悩みなどを把握、相談しやすい環境作りを実施。
- ・ 生徒との関係の質を大切に、この先生・この学校は信頼できる、相談できるといった関係性を構築していく。生徒やクラスの状態にあわせて、あつていそうな教員が面談や対応を実施。入学・進級直後での面談に加えて、学科、クラス、担任の枠を超えそれぞれの教員が各クラスに顔を出し、生徒の変化などを確認する、声をかける機会を増やす。また、教員間での情報共有をより加速させていく。⇒生徒の変化などをよりタイムリーに把握し、必要に応じて保護者の方にも協力頂き対応していく。
- ・ 生徒のメンタルケアをサポートするため、スクールカウンセラーを設置しタイムリーに対応していく。
- ・ 生徒が抱える様々な問題を解決する為に、スクールソーシャルワーカーを設置しタイムリーに対応していく
- ・ 同窓会 Sanko-Link や、卒業生用公式 LINE を活用し、卒業後の支援体制を軌道に乗せていく

③ 特記事項

- ・ 全国の姉妹校との連携を活かして、オンラインも有効活用しての進路・就職支援制度の整備は進んでいる。
- ・ 高校と連携し、部活動や、キャリアに対するサポート、取り組みを積極的に実施できている。
- ・ 保護者連絡ツール「スクレ」を導入し、保護者にも学校の取組を把握いただくために情報提供している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 学生が安心して楽しい学校生活を送れる環境作りを今後も継続をお願いします。(山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)
- ・ チーム担任制について教育に携わるすべての先生に相談できる試みは、学生が気軽に悩み・相談が出来る支援だと思います。(山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)
- ・ スクールカウンセラーによる、教職員のアシストとして生徒の心のケアの取り組みに期待します。(山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)

(6)教育環境

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--|----|
| 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 |
| 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 |
| 防災・安全管理に対する体制は整備されているか | 4 |

① 課題

- ・ 今後も実習やインターンシップ先の確保、質の向上を進めていく必要がある。
- ・ 施設設備の更なる整備が課題。

② 今後の改善方策

- ・ 積極的に情報収集や、企業訪問を行い、実習施設やインターンシップ先の充実を図っていく。
- ・ 施設設備の経年劣化より、プロジェクターの備品のリニューアルし、ビルメンテナンス企業様との連携を強化していく。

③ 特記事項

- ・ 全教室に PC プロジェクターが設置されている。
- ・ 美容師国家試験実技対策として、VRを導入している。
- ・ 国内研修(東京・大阪)、海外研修(ヨーロッパ・韓国・ハワイ)の実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 施設設備の経年劣化より、プロジェクター他、設備に関しての保守管理等、ビルメンテナンス企業と強化及び、防災、安全管理につきましても、火災避難訓練を毎年実施し教員・生徒の安心・安全な教育環境の継続を引き続きお願いします。(山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)
- ・ 国内、海外研修の実施により生徒のキャリア向上が期待できる制度に期待します。(山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)
- ・ 将来の就職先での実践力を高めるため、顧客とのトラブル対応に関する研修を実施することは非常に有益だと考えられる。実際の現場で必要となるコミュニケーション力や問題解決力を事前に養うことで、学生の自信や対応力が向上し、即戦力としての成長につながると期待できる。(村橋委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について)

(7) 学生の受入れ募集

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 学生募集活動は、適正に行われているか | 4 |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4 |
| 入学選考は、適性に行われているか | 4 |
| 学納金は妥当なものとなっているか | 4 |

① 課題

- ・ 定員充足率を 100%にする
- ・ 奨学金や高等教育無償化に関して、高校でしっかりと説明を受けていないケースが多くあるので、オープンキャンパスなどを活用して、本校からも説明や告知を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ SNS にて学校の魅力を発信する、進路ガイダンスに積極的に参加する、早期対策などを含めた広報活動の更なる対策強化を行う。
- ・ オープンキャンパスや、進路ガイダンス、高校訪問などで十分に説明、告知を行っていく。
- ・ 県内高校の大学進学率や県外に進学する高校生の増に伴い、大学と専門学校との違いや県外に進学する費用の差などを説明していく。

③ 特記事項

- ・ 一般社団法人沖縄県専修学校各種学校協会に加盟し、同会で定められた生徒募集ルールに則り取り組んでいる。併せて、沖縄広報室からの支援も受けて募集活動に取り組んでいる。
- ・ 2024 年度より美容科ネイル & アイラッシュコースの開設。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 将来への高い希望をもって入学した学生を奨学金や高等教育無償化等の問題で就学意欲の低下による学力低下や早期退学の事態が起きないようにオープンキャンパスや、進路ガイダンス、高校訪問などで十分に説明、告知を行っていく取り組みをお願いします。（山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について）
- ・ 2024 年度より美容科ネイル & アイラッシュコースの開設について、引き続き質の高い教育を期待します。（山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について）

(8)財務

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023年度～2027年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 4 |
| 自己評価結果を公開しているか | 4 |

① 課題

- ・ 自己評価で浮き彫りになった課題を解決していく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ 各項目、自己評価で浮き彫りになった課題に対して、しっかりと改善策を実施していく。

④ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 引き続きコンプライアンスを遵守、情報公開を行い適正な学校運営をお願いします。
（山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について）

(10)社会貢献・地域貢献

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|----|
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3 |
| 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか | 3 |
| 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 2 |

① 課題

- ・ 社会貢献活動・地域貢献活動・ボランティア活動などを積極的に行い、地地域の活性化などに繋げることができたので、こういった活動をより継続・強化していきたい。

② 今後の改善方策

- ・ 社会貢献活動・地域貢献活動・ボランティア活動を引き続き継続・強化していく。
- ・ 教育訓練の申請が通ったので、今後積極的に受け入れを行っていく。

③ 特記事項

- ・ 様々な方や、団体施設と連携し、施設の貸し出しや、サポート、ボランティアを実施している。
- ・ 親和性の高い高校の部活支援として、メイク講座を実施している。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 今後も社会貢献・地域貢献活動の継続をお願いします。（山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について）
- ・ 家庭環境により定期的な美容に行けない家庭の子供たちを対象にスチューデントサロンを活用した「こども美容院」のようなボランティア活動等を行い学生のボランティアへの関心を高める企画を
- ・ 提案します。（山下委員:美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科・美容研究科について）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・ 教育目標の達成に向けて着実に取り組んでいる。授業アンケートや卒業生アンケートでは教職員の熱意や授業の工夫が高く評価されている一方、学科間で教育の質に差が見られ、今後の改善課題として認識している。進級・卒業率は前年より向上したものの目標には届いておらず、特に1年生の早期離脱防止や生活習慣の改善に重点を置いた支援体制の強化が求められる。就職率は開校以来4年連続で100%を維持し、資格取得率も高水準を保っているが、退学率の低減や卒業生との継続的な関係構築が課題である。教職員の研修や業界連携の強化、最新技術の導入も継続して推進し、質の高い教育環境の実現に努めていく。

